

特集にあたって

他人任せはもったいない！ 在宅主治医こそ褥瘡を知ろう，みよう

企画・構成 鈴木 央 Suzuki Hiroshi
(鈴木内科医院院長)

在宅での褥瘡ケアは，在宅医療を行っていくうえで必ず遭遇する課題です。きちんと対応ができていますでしょうか。訪問看護師にすべてを委ねて，自分では創の観察すらしていないケースはないでしょうか。訪問してくれる皮膚科や形成外科の医師にすべてお任せしているケースはないでしょうか。自分には関係のないことと考えている人もいるかもしれません。それではもったいないと考えます。褥瘡ケアの理論を学び，理解すると，多くの褥瘡が面白いように治っていくと筆者は感じているのです。

また褥瘡ケアにはチーム医療が不可欠です。それぞれがチームの一員として，役割を果たすことはできているでしょうか。医師，訪問看護師，薬剤師，理学療法士などのリハビリテーション職，管理栄養士，歯科医師，歯科衛生士，ケアマネジャー，訪問介護士，サービス提供責任者，デイサービスなどの生活相談員，福祉用具専門相談員など，さまざまな専門職の役割を理解し，つながり，情報を共有することができているでしょうか。

褥瘡ケアは，局所のケアに目がいきがちですが，全身のケアも重要です。栄養ケア，リハビリテーション，疾病のケアなども視野に入れなければなりません。終末期に生じた褥瘡に対しては，別のゴールを目指す必要もあります。褥瘡がなぜできることになったのかというナラティブ(ものがたり，事情)もまた重要です。したがって専門医に任せるだけでは不十分です。総合的に患者とその取り巻く環境や家族もケアする，在宅主治医の存在が不可欠なのです。“そのひとの全体を見て，在宅で治せるものは治す”，これが在宅褥瘡ケアの基本であると筆者は考えているのです。

本特集では，日本褥瘡学会在宅医療委員会のメンバーに主に執筆を依頼しましたが，ページ数の制限もあり，エッセンスのみが示されています。これを機に教科書なども併せて学ぶことが大切と考えます。本特集が，読者の在宅ケアに少しでも役に立つことができれば幸いです。